

Title	インドネシア語の前置詞UNTUKの”untuk+動詞”における願望標示機能について
Author(s)	松野, 明久
Citation	大阪外国語大学学報. 64 p.219-p.227
Issue Date	1984-03-20
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/80980
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

インドネシア語の前置詞 UNTUK の “untuk + 動詞” における願望標示機能について

松 野 明 久

On the Optative-Marking Function of UNTUK in “untuk + verb” in Bahasa Indonesia

Akihisa MATSUNO

UNTUK, one of the Indonesian prepositions, often seems to be optional in certain sentence patterns, such as “memaksa (untuk)”, “berusaha (untuk)”, “perlu (untuk)”. This paper aims to explain the semantic difference between these two seemingly exchangeable forms. I assume that basically UNTUK marks optative to the verb which it precedes, and I think this assumption could be partially proved.

1. 問題の所在

インドネシア語の前置詞 *untuk* には, “*untuk* + 動詞” という形をとるときに, *untuk* の使用が一見特別な意味の変化をもたらさないように思われる用法がある。以下にその例をあげる。

- 1 a. Dahaga yang sangat memaksa saya \emptyset masuk ke situ membasahi tenggorakan dengan seseloki champagne. (PM, 2)¹⁾

あまりの喉の渇きに, 私はそこへ入って一杯のシャンペンで喉をしめしたのだった。

- 1 b. Ia ingin memaksa semua orang *untuk* meludahi dan mengeluarkan ingus ke tubuhnya. (STN, 42)

彼は, 彼のからだに唾をはきかけ鼻水をたらしてくれるようみんなを強制したい気持ちだった。

- 2 a. Tokoh kita berusaha keras \emptyset menghindarkan gambaran dari apa yang sudah dilihatnya dengan jelas sekali dalam kepalanya. (MM, 51)

われわれの主人公は, その頭の中にはっきりと見てしまったもののイメージを一所懸命遠ざけようとした。

- 2 b. Lelaki itu berusaha *untuk* bertegur sapa, tetapi sopir itu rupanya anti basa-basi. (STN, 9)

その男は話しかけてみようとしたが、どうやらその運転手は無意味なあいさつがきらいなようだった。

- 3 a. Ia merasa tak perlu \emptyset mengucapkan apa-apa lagi. (STN, 71)

彼はそれ以上何も言う必要はないと感じた。

- 3 b. Tetapi ia merasa perlu *untuk* berdoa. (STN, 101)

しかし彼は祈りをする必要があると感じた。

これに類する *untuk* の用法、つまり、“*untuk*+動詞”の形式において *untuk* が optional かと思われるような用法はかなりある。“*untuk*+動詞”をとる主動詞（ないしは主形容詞、と仮に言っておく）の意味上の傾向によって次のように分類してみた。

- ①依頼・強制 例文は上記の 1a, 1b. 主動詞としては他に *menganjurkan*, *minta*, *mohon*, *mengajak*, *memerintahkan* など。

- ②努力 例文は上記の 2a, 2b. 主動詞としては他に *mencoba*。

- ③必要 例文は上記の 3a, 3b. 主形容詞としては他に *butuh*。

- ④能力 主形容詞は, *mampu*, *bisa*, *kuasa*。

- 4 a. Dia tahu, siapa dan apapun toh bakal tak mampu \emptyset menghalangi bekas komandannya itu *untuk* pergi.(MM, 32)

彼は知っていた。そのかつての彼の司令官が去ってゆくのを誰もそして何ものも止めることはできないだろうということ。

- 4 b. Ia merasa tak mampu *untuk* membagi selera rakyat itu. (CDK, 41)

彼はその民衆の感覚を共有できないと感じている。

- ⑤欲求 主動詞は, *berniat*, *bernafsu*, *bermaksud* など。

- 5 a. Ia bermaksud \emptyset menuangkan bir ke perutnya. (STN, 101)

彼は胃にビールを注ぎ込もうと思った。

- 5 b. Mungkin orang itu sebenarnya tak bermaksud *untuk* mengatakan apa-apa lebih dari bahwa ia ingin muntah. (STN, 85)

おそらくその人は、実際、吐きたいということ以上のことを言いたかったのではないだろう。

⑥決定 主動詞は memutuskan.

6 a. Juga Panitia Hadiah Nobel seharusnya mengunjukkan adanya cita rasa yang baik dan kehendak akan proporsi pada dirinya, dan memutuskan \emptyset memberi salah satu hadiah kedokterannya, atau hadiah peri kemanusiaannya, atau hadiah perdamaiannya, kepada kaum gelandangan. (MM, 56)

またノーベル賞委員会もノーベル賞の内訳についてもっと好意的な配慮ややる気を示し、浮浪者に対して、医学賞か、人道的行為に対する賞か、あるいは平和賞のひとつを与える決定をすべきである。

6 b. Ia telah lama memutuskan *untuk* berlibur. (ASB, 99)

彼女は以前から休暇をとろうと決めていた。

⑦権利 主動詞は berhak.

7 a. Mereka berhak \emptyset menerima warisan nenek Komariah. (KH, 104)

彼らはコマリアーばあさんの遺産を受け取る権利がある。

7 b. Karena itu mahasiswa tidak berhak *untuk* mengkritik, hingga aksi mereka pun harus dihentikan. (CDK, 81)

それゆえ学生には批判する権利などなく、したがって彼らの行動も停止されなければならない。

⑧態度 主動詞（主形容詞）は, berani, bersemangat, malu, siap など.

8 a. Lelaki itu tak berani \emptyset memandang mata orang lain. (STN, 38)

その男は他人の目を見る勇気がなかった。

8 b. Tetapi ia tak berani *untuk* merebutnya, takut kalau orang banyak itu kembali menunjukkan perhatian langsung kepadanya. (STN, 77)

しかし彼は、その群衆がまた彼に直接の関心を示すかと思うと、こわくてそれを奪う勇気がわかなかった。

用法としてはこれですべてではないだろうし、またここにあげたものすべてを統一的に解釈できる説明原理を発見するのも簡単ではない。本稿では、1～3 についてのみ仮説をたてそれを検証した。残りの部分については別の機会に検討したいと思う。

2. Salah Asuhan における *untuk* の代替表現

アブドゥル・ムイス作 *Salah Asuhan* (邦訳『西洋かぶれ』, 初版1928年) では, *untuk* はほんのわずかしかつかわれていない。かわって, われわれが *untuk* を期待するところには, *hendak*, *akan*, *buat* が多く用いられている。以下にその例をあげる。

9. Lama benar ibu Hanafi memandang kepada anaknya yang termenung-menung dan makin segan *hendak* bertutur itu. (SA, 259)

ハナフィの母は, ほんやり考えごとばかりしてますます話をしたがいなくなった息子を長い間見つめていた。

10. Jadi sekarang orang-orang tua itu bermaksud *hendak* menyelidiki dahulu hal ihwalmu dengan nyonyamu. (SA, 258)

つまり, 今やその老人たちは, 君と君の奥さんのことをまず調べてみようというつもりなのだ。

11. Kewajiban tuan, kewajiban saya sendiri *akan* melakukan segala ikhtiar, supaya tuan sembuh kembali. (SA, 271)

あなたの義務は, それは私の義務でもあるのですが, あなたの健康をとりもどすあらゆる努力をするということです。

12. Sebagai orang Timur, yang hidup di dalam asuhan ketimuran, tak mungkin benar bagi Rapih *akan* mendapat asuhan dari Hanafi, yang berlaku kebarat-baratan itu. (SA, 254)

東洋的な教育を受けて育った東洋人であるラピアーが, 西洋かぶれしたハナフィから教育をうけることなどできるはずがなかった。

13. Jika engkau berasa perlu *akan* membawa-bawa Justitie di dalam perceraian ini, kau usahakanlah. (SA, 185)

もしこの離婚に法律をもちだす必要があると思うのなら, そうするがいいさ。

14. Tapi jika tidak, bersedia-sedialah nyonya *buat* ditanyai oleh Bestuur. (SA, 189)

しかしもしそうでなければ, 委員会による事情聴取を覚悟していただきたい。

15. Susah benarkah berusaha *buat* menyenangkan-nyenangkan hati dalam bergaul dengan suami, setelah nyata bahwa sekalian kawan-kawan sudah menyinghkan dirinya dari suami ini, dari kita berdua? (SA, 170)

友人たちがみなこのぼくから, ぼくたち二人から離れてしまったことが明らかになった今, ぼくと一緒に楽しく暮らすことがそんなにむずかしいことなのかい。

これらの *hendak* (～したい), *akan* (～だろう), *buat* (～のため) が *untuk* と置換可能であるという事実によって、上述の *untuk* の用法も、願望・欲求、未来・意志、目的といった意味をもっていると考えることができる。それは“*untuk*+名詞”における *untuk* の意味とも基本的には一致する。そこで、この“*untuk*+動詞”における *untuk* の機能は願望 (Optative) 標示にあると仮定し、以下 1～3 についてそれを検証してゆきたい。ここでいう願望 (Optative) は、欲求、未来、意志、目的などの意味を含んだやや幅の広い概念である。

3. *memaksa*+名詞+(*untuk*)+動詞

1. で①としてまとめられた動詞は、相手に何らかの動作をおこさせることを意図する主動詞である。これらは、その意図の強さ、影響力の大きさから、さらに次のように並べることができる。

- a. 呼びかけ *memanggil* (呼ぶ), *berseru* (呼ぶ) 他.
- b. 提案 *menganjurkan* (提案する) 他.
- c. 勧誘 *mengajak* (さそう), *mengundang* (招待する) 他.
- d. 依頼 *menyuruh* (頼む), *meminta* (請う) 他.
- e. 命令 *memerintah* (命じる).
- f. 強制 *memaksa* (強いる).
- g. 使役 *membuat* (～にする), *menyebabkan* (ひきおこす) 他.

このうち a. と g. は①の主動詞群に含まれないが、相手に影響を与え何らかの動作をおこさせることを意図する動詞としてここに並べてみた。そして、この a. と g. にみられる *untuk* のあらわれ方がわれわれにとって特に重要なのである。

まず、a. 呼びかけに属する主動詞は、その伝達事項をあらわすのに必ず *untuk* (ないし *agar*) を用いねばならない。

16. Ia terus saja naik dan berseru pada beberapa temannya *untuk* ikut. (ASB, 63)
彼は登りつづけ、数人の友人に向かってついて来るよう叫んだ。

17. Orang itu, lelaki yang berumur, ingin memanggil seseorang *untuk* ikut menyaksikan lagu pagi hari itu. (STN, 5)

その年老いた男は、その日の朝の様子を一緒にながめてくれるようだれかを呼んできた気持ちだった。

逆に、g. 使役に属する主動詞は“*untuk*+動詞”をとることができない。

18. Rambutnya digunting pendek, membuat segi di wajahnya ø kian menojol. (KMR, 13)

髪の毛は短く刈られ、それが顔の輪廓をきわだたせていた。

19. Ini menyebabkan ia ø merasa lebih kotor lagi serta runyam. (STN, 77)

このことで彼はより汚れ苦しい立場になったと感じた。

この二つの事実は上にあげたわれわれの仮定と一致する。つまり、呼びかけの動詞は、本来、「依頼」の意味を含まないから、次に無標示の動詞がきてもそれと主動詞との関係がはっきりしない。その動詞が依頼されている内容という解釈を受けるために *untuk* が必要なのである。一方、使役動詞はそれだけで独立して用いることはできず、それがひきおこした動作をあらわす動詞の存在を前提している。しかもその動作は実現しているはずであるから、願望標示をつけることはありえないのである。そこで、問題の強制の動詞 *memaksa* については、それが言語行動としての「依頼」である場合と使役動詞のように動作の実現をひきおこす場合とが考えられ、前者に *untuk* を付加する、という仮説をたてることができる。この仮説を次のような文によって検証してみよう。

- 23 a. Dia memaksa orang tua itu untuk duduk, tapi orang tua itu tidak duduk juga.

- 20 b. *Dia memaksa orang tua itu duduk, tapi orang tua itu tidak duduk juga²⁾.

彼はその老人を強制的にすわらせようとしたが、その老人はすわらなかった。

- 20 b. ではすわったはずなのにすわらなかったといっているので矛盾が感じられる。

さて、b.~f. は言語的な依頼行為ということで *untuk* に関しておそらく統一的に処理できると推測されるが、実はこれがよくわからない。この種の動詞は、もともと願望を伝えるものであるから、*untuk* は *redundant* な要素だと考えることもできる。しかし、インフォーマントによると、どちらでもよいというのではなくて、どのような基準でかははっきり認識できないが、文ごとに *untuk* を使うべきかそうでないかと考える、というのである。この点は別の機会に論じたい。

4. *berusaha* + (*untuk*) + 動詞

この場合、われわれは、“*untuk* + 動詞”と“動詞”とを同種の文要素、例えば *berusaha* の目的語である、などと考えがちである。しかし、“動詞”はともかく、“*untuk* + 動詞”は目的語たる資格に欠けるとみなす十分な根拠がある。以下のような主動詞の場合、目的語たる次の動詞は無標でなければならない。

21. Saya lupa \emptyset membawa uang.
私はお金をもってくるのを忘れた。
22. Saya selesai \emptyset mengerjakan hal itu.
私はそのことをやり終えた。
23. Dia berhenti \emptyset bekerja di pabrik itu.
彼はその工場で働くのをやめた。
24. Kita telah berhasil \emptyset meningkatkan produksi.
われわれは生産を増加させるのに成功した。
25. Ia mulai \emptyset belajar bahasa Indonesia.
彼はインドネシア語を勉強しはじめた。

これらの文パターンから考えると, berusaha も目的語を無標でとるのであって, untuk がつく動詞は構文上の性格が異なると考えることができる。そしてそれが意味のちがいいに対応しているのである。つまり, berusaha+“動詞”の場合は, ある動作を努力して行なっているのであり, 一方 berusaha+“untuk+動詞”の場合は, 願望, ないしは努力目標であって, そのために努力している, という仮説が成り立つのである。これを以下の文で検証してみよう。

- 26 a. Ia berusaha untuk menegahi pertengkaran mereka, tapi mulutnya tidak mengeluarkan kata-kata.
- 26 b. *Ia berusaha menengahi pertengkaran mereka, tapi mulutnya tidak mengeluarkan kata-kata.

彼は彼らのけんかの仲裁をしようとしたが, 口から言葉がでなかった。

26 b. では, 仲裁の努力をしているはずなのに, 口から言葉がでなかったと言うのは, 論理的にひじょうにおかしく感じられる。

5. merasa perlu+(untuk)+動詞

この文パターンから merasa を除いた部分, perlu+(untuk)+動詞という形については, 若干, 統語上の特性に差がみられる。

- 27 a. Ia merasa perlu membayar utang itu dengan segera kepadanya.
- 27 b. Ia merasa perlu untuk membayar utang itu dengan segera kepadanya.
彼はその借金をすぐに彼に払う必要があると感じた。
- 28 a. Ia perlu membayar utang itu dengan segera kepadanya.

28 b. *Ia perlu untuk membayar utang itu dengan segera kepadanya.

彼はその借金をすぐに彼に払う必要がある。

29 a. Perlu saudara melaksanakan tugas saudara itu dengan segera.

29 b. *Perlu saudara untuk melaksanakan tugas saudara itu dengan segera.

君がその君の任務をただちに実行することが必要なのだ。

結局、perlu+“untuk+動詞”と perlu+“動詞”は異なった文パターンに属すると思われる。27の2つの例文ではそれがおいおいかかされているのである。28a. と 29a. では、perlu はそれを除いた残りの部分—それは実際完全な文である—に対する話者の判断を示したものである。それは文中の主体が必要と思うかどうかとは無関係である。そのような文に untuk がついてはならない理由も、われわれの仮定から考えるとすでに明白である。つまり 27a. では、ある外的な状況をもとに客観的に判断されたある動作の必要性を主体が追認するかたちで感じとっているのである。27 b. では、主体の主観的判断が中心となって、いく分「そうせねばならぬ」という意志と覚悟をもって、その必要性を感じているのである。

6. 今後の課題

いくつかの問題が残った。「1. 問題の所在」であげた文パターンのうち④～⑧は手つかずで残った。①では依頼の動詞と untuk の関係が説明されないまま残った。③については、実際には、次のような、現段階ではうまく説明できない文パターンが存在する。

30 a. Rumah itu dibeli oleh ibu Hanafi dan di sanalah ia tinggal bersama Rapih, karena perlu \emptyset menyekolahkan Syafei. (SA, 274)

その家はハナフィの母が買いとりラピアーと共に住んだ。シャフェイを学校にやる必要があったからだ。

30 b. Aristoteles, Archmedes, Galileo dan Newton sebetulnya ahli filsafat bagian alam, tetapi karena ilmu berkembang terus, maka perlu sekali *untuk* mengkhususkan bidangnya, seperti biologi, kedokteran, astronomi, geologi, matematika, kimia dan lain-lainnya. (FSK, 1)

アリストテレス、アルキメデス、ガリレオそしてニュートンは、実際には自然分野の哲学者だった。しかし、学問がどんどん発達したので、生物学、医学、天文学、地学、数学、化学などと専門分化する必要があったのである。

これらは客観的必要性／主観的必要性という規準からは説明できない。今後の課題である。

また、今回は考慮しなかったが、untuk の出現が特に意味的な重要性をもたない場合がありう

る。それは、*untuk* が次にくる動詞のそれと共起する主動詞への連絡をうけもっている場合である。以下に例をあげる。

31. Ia tidak dapat membedakan, apakah ia *ingin* membunuh atau hanya *untuk* menyakiti. (STN, 84)

彼は、殺したいのかただ傷つけたいだけなのか、区別することができなかった。

32. Tak *bisa* lagi mendudukan persoalannya dengan jelas. Apalagi *untuk* membuat garis pasti antara sebab dan akibat atau antara akibat dengan sebabnya yang utama. (STN, 40)

もはやその問題をはっきりと把握することはできなかった。ましてや、原因と結果、あるいは結果とその主要な原因との間にはっきりとした線をひくことなどできようはずがなかった。

このような例文では *untuk* は意味をもたず、形式的な理由から用いられていると考えるべきであろう。

さらに、地方語の用法の影響というのも無視できない問題である。しかし今回は特に資料がないので考慮しなかった。

作品と略記号一覧

- ASB Pramoedya Ananta Toer : *Anak Semua Bangsa*. Hasta Mitra. 1980
CDK Dick Hartoko (ed.) : *Golongan Cendekiawan*. Gramedia. 1980
FSK Widagdo Mangunwiyoto : *Buku Pelajaran Fisika, jilid 1, untuk SMA*. Erlangga. 1982
KH Ramadhan K. H. : *Kemelut Hidup*. Pustaka Jaya. 1977
KMR A. A. Navis : *Kemarau*. Pustaka Jaya. 1977 (cetakan kedua)
MM Iwan Simatupang : *Merahnya Merah*. Gunung Agung. 1981 (cetakan ketiga)
PM Matu Mona : *Pujangga Melayu*. in Pusat Pembinaan dan Pengembangan Bahasa Departemen P & K, *Cerita Pendek Indonesia I*. 1979
SA Abdoel Moeis : *Salah Asuhan*. Balai Putaka. 1979 (cetakan kesebelas)
STN Putu Wijaya : *Stasiun*. Pustaka Jaya. 1977

注

- 1) カッコ内は作品と頁をあらわす。作品とその記号は論文末に一覧表をかかげた。
- 2) 自作の例文については、本学客員教授アイプ・ロシディ氏にその適格性を検討していただいた。ここに記して感謝の意を述べたい。